



設立10年のご挨拶

会長 井上悦子

日本小児はり学会は、2007年（平成19年）4月15日に設立総会を開催し、第1回学術集会をその年の11月3日に兵庫県私学会館にて開催いたしました。以来、前会長恵美公二郎先生のもと、毎年秋に兵庫、大阪、東京、京都、愛知の各地で学術集会を盛会に開催してまいりました。学術集会のみならず特別講習会の開催、各地での普及活動や東日本大震災の被災地でのボランティア活動や募金活動、ドイツの国際日本伝統医学協会（IGTJM）との交流等を経ながら、平成28年に学会設立10年を迎えることができました。これも偏に会員のみなさまのご支援の賜物と深く感謝申し上げます。また前会長恵美公二郎先生、役員の方々、そして事務局スタッフの方々の献身的なご努力によって学会が発展してきましたことに心より敬意を表します。

このたび平成28年9月24日、姫路市民会館にて開催いたしました設立10年記念式典と記念学術集会は、遠方にも関わらず多くの会員の方々にご参加をいただき有難く厚く御礼申し上げます。当日の記念式典にて、恵美公二郎先生のご功労や小児はりの単行本を出版された館坂聡先生のご奨励を讃える表彰や会員の先生方のご協力に対する感謝状の授与式を行うことができました。また10年の学会活動を振り返り、学会活動に多大の理解とご協力をいただいている佐伯正史先生や顧問の佐藤美津子先生をはじめご列席いただいたご来賓の方々からご祝詞を賜り、相談役の清水尚道先生ほかから温かなご祝電を多数いただきました。記念学術集会では、二日間に渡って、普及講座のワークショップや実技講座、教育講演、公開講座、一般口演を行い、これまでにない参加者満足度の高い学術集会となりました。ご参加いただけなかった方も本誌にてそれぞれのご講演や口演の内容をご覧いただければ幸いです。また、顧問佐藤美津子先生には協賛イベント「ステロイドを使わないアトピーっ子の集いー姫路きらきらぼし」を会期に合わせて開催していただくこともできました。

振り返れば、毎年行われる学術集会の教育講演や公開講演には名だたる講師の先生方にご講演いただき、鍼灸師はもとよりご参加の一般の方々にも有益な情報を提供させていただくことができました。一般口演においては会員の先生方から多くの興味深い研究や症報告が発表され、それら様々な視点からの発表に、小児はりの有用性だけでなく課題の認識とともに、学会設立の意義を常に再確認させられてきました。種々の小児はりの手技を体験していただくプログラムも毎年好評に行われ、手技を披露するそれぞれの先生方の前には長蛇の列ができるほどでした。

関西はもともと小児はり盛んな地域ではありますが、それでもまだまだ小児はりを体験したことのない学生さんや鍼灸師の方々が多くいらっしゃることに驚きます。関西以外の地ではなおさらです。小児はりの普及を大きな目的とする日本小児はり学会が果たす役割を痛感しています。設立10年を節目に、心新たに、今後なお一層の普及活動に力を注ぐとともに小児はりの研究を深め、小児はりの新たな可能性を追求してまいりたい所存です。学術集会や特別講習会では、会員の先生方のニーズに応えられる魅力あるプログラムを企画し、認定小児はり鍼灸師制度を確立し、国内外の関連学会や師会とも積極的に交流して、小児はりの情報を発信し、学会活動をさらに発展させてまいりたいと思います。

小児はり全盛期の大阪では「はり」と言えば、虫ばりや小児ばりを指すほど、小児はりをしない鍼灸院はなかったと言います。一人でも多くの子どもたちが小児はりの恩恵を受けてすくすく育つように、小児はりルネッサンスを願って精励していきたい所存です。

最後になりましたが、会員の先生方の益々のご健勝とご活躍をお祈りいたしますとともに、学会活動により一層のご支援とご指導、ご協力を衷心よりお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。